

経営効率化の取り組み（東北電力）

- 前回改定時に料金原価に織り込んだ年1,139億円の効率化を達成したうえで、さらなる効率化に取り組み、今回申請した原価全体で1,000億円程度、値上げ幅を抑制しております。
- 具体的には、AI・IoTなど先端技術を活用した取り組みや発電設備の工事・点検周期の見直し、メーカーやコンサルティング会社など外部有識者の知見活用による資材調達コストの一層の削減などを進めてまいりました。
- 今後の取り組みとして高効率な最新鋭設備を有する上越火力発電所の稼働や燃料調達方法の工夫などに取り組んでまいります。また、この他に女川原子力発電所2号機の再稼働により、需給関連費用の低減を図っております。

